

- 1 野良犬の嘆息地表を温めり
- 2 鉄骨の尖塔真昼の月を指す
- 3 近未来魚眼レンズにたゆたへり
- 4 祖母語る脈絡の無き地獄かな
- 5 人間（ひと）傷み禽の眼曇り木々歪む
- 6 賛美歌の音階狂ひて地下の春
- 7 人間の環の只中に居て骨軋む
- 8 花花の不浄や獣の眼は暝し
- 9 雷鳴や坐像傾く北方へ
- 10 かくれんぼ異形の佛の紛れをり
- 11 雨あがる万物どつと哄笑す
- 12 日蝕や子宮卵巣蠢きぬ
- 13 梅干の腐りぬ誰そ死にたるや
- 14 鬢頭廬の顔無き顔で笑ひをり
- 15 銀の蠅光と闇を糾へり
- 16 星座地凶蛞蝓北へ北へ這ふ
- 17 油蟲夜明けと共に還俗す
- 18 永訣は此の掌の裡蟬時雨
- 19 竈佛（かまどがみ）次は誰をぞ火種とす
- 20 赤き犬一度も吠へづ灰になる
- 21 金色の静寂に睡る人間の四肢
- 22 堕ち椿陰陽並べて此の世なり
- 23 母嗤ふ末期の惑星を眼に宿し
- 24 蟻の群光の骸運びをり
- 25 厭世の魔境賑ふ山櫻
- 26 咀嚼せりハンバーガーと現実と
- 27 人間集る一塊の混沌に
- 28 五分後の未来は銀河か化野か
- 29 夜の犬遍く窓を監視せり
- 30 傾向と対策に依り人間愛す
- 31 やはらかに風葬すなり過去の咎
- 32 夢の痕誰そ落としし林檎飴
- 33 沈殿す肉声の骸（から）暁闇に
- 34 酒瓶の底に睡りし夢の種子
- 35 雨音を手向けとすなり獣の死
- 36 燭を点さむ有形無形の寂しさに
- 37 天地のあはひに人間の聲溜まる
- 38 淫蕩なる神神の翳礼拝す
- 39 祖父検す南無阿弥陀仏の掛軸を
- 40 鉄仮面愛と平和を唱へけり
- 41 黒き雨遍く肌理に浸潤す
- 42 頭無き地蔵に真紅の前垂れを
- 43 胸底に鬼火かがりて雛祭り
- 44 本願は何処に在りや冬の虹
- 45 剥落す悔恨の襞闇に溶け
- 46 流木の一個物として自若なり
- 47 永遠の炎を吐きにけり不具の星
- 48 疼痛を秘して綻ぶ白椿
- 49 文明の残宰原始の風に散る
- 50 花祭り未生の魂の輪舞せり

- 51 言の花無明の野辺にて群生す
52 蛮界に蠢きたるや鉄の蟲
53 盆踊り異形の佛（かみ）を座に宿し
54 文明碑鳥の糞にまみれけり
55 生類の命運科学の利器に賭す
56 鉄骨の森をば抜けて冬の旅
57 大蛾発つ今生の陽を全身に
58 混交す常念仏と蟲の聲
59 昏睡す獣の背に花明かり
60 人間の波昏黒を背に蠕動す
61 草の魂慮りて庭荒るる
62 乳母車動かば春の錠ひらく
63 寂光の一隅に座す生魍
64 噤まれし言葉は既に炭化せり
65 明暗の境を行きし蟻の列
66 水溜まり空の眼玉となりにけり
67 現世は刻一刻の雲の相
68 魂の交歓ときに律動（リズム）もて
69 風に焔に漣に石に近江在り
70 女郎蜘蛛光と死をば紡ぎけり
71 針供養たふとき指に接吻を
72 鳥は啼く天の記憶に苛まれ
73 混血の老女奏でし夜想曲（ノクターン）
74 揚羽蝶一墓一墓を愛撫せり
75 魂の声音を生の冥加とす
- 76 蝸牛一等星の下果てり
77 水神の盲眼ひらく原爆忌
78 母の背に赤子鈍色の喃語吐く
79 魚の眼変幻自在に世を捉ふ
80 鉄仮面墜つれば己が荒野なり
81 民族の横顔流離の色帯びて
82 幻想の間に間に睡る墓
83 月光と雨に撓みぬ蜘蛛の絲
84 灌木を墓標に風音を読経とす
85 曼珠沙華文明の座に血を溢す
86 心眼を空に集めて星祭り
87 葬列の後をばつけて銀河行
88 野良の牛祈りの地平を逍遙す
89 重低音空に足搔きし鉄の蟲
90 行雲に不朽の貌（かたち）模索せり
91 寄りなづむ翳氷結す地下の街
92 凍蝶の光の嵩を測りをり
93 死神と弦月祖母の酔眼に
94 惑星の一瘍（いちよう）として人間存す
95 抗はづ落ちて来世に寒椿
96 ひとしきり泣かば去れよと冬木立
97 心電図刻々と打つ肉の音
98 双頭の花屹立す佛前に
99 錆色の貨車定刻に人間拐（さら）ふ
100 風の村此処より先は銀河なり